

2022.03.22 シニアクラブ zoom ミーティング報告

春分も過ぎて春爛漫、季節到来「花を愛でよう」と開催した今回の zoom 会合でしたが、あいにくこの日は関東地方でも一部地域に雪が降るほどの冬の寒さ。加えて、3月16日に起きた福島県沖 M7.4 地震のために一部火力発電所が稼働停止の状態、東京電力は管内に「電力需給ひっ迫警報」をだして電力使用の自粛を求める、ということで室内のエアコンも使用できない環境のもとで開催されました。参加者は遅れて参加した2名を含めて11名。

最初に田代から、総会の返信ハガキでアンケートを募った「私の故郷」についてまとめた結果を報告。次ページを参照願います。続いて、本題の「花」ですが、今年は冬の寒さが長く続いたために桜の開花が遅れています。昨年と今年、同じ場所で撮った梅、河津桜、ソメイヨシノの写真を並べて咲き具合の違いを紹介。

今回の zoom 会合表題の写真は昨年のもので、季節到来と言うにはすこし早かったようですがまもなく一気に開花することでしょう。

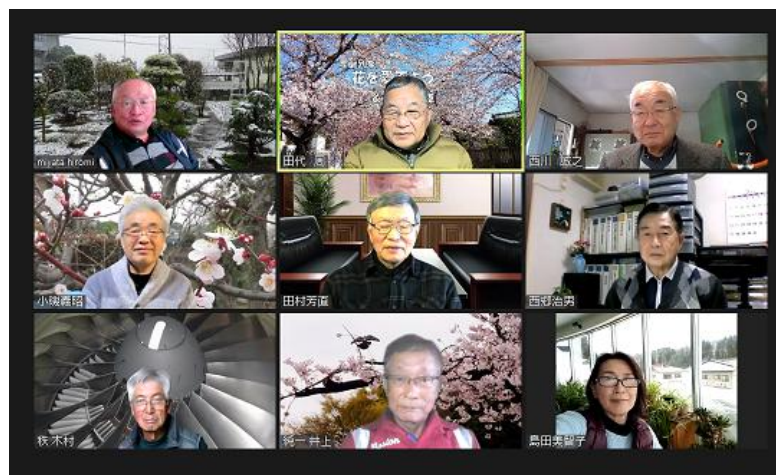


田村さんから、5分ほどにまとめられた見事な「しだれ桜」の映像が紹介されました。その他参加者から、陽の当たる窓際に置いた花、温室で育てた花などの紹介がある一方で、まだ3mもの高さが残る雪景色の紹介もありました。

浅見さんからは、今回も歌でお花見となりました。ギターと共に「早春賦」「みかんの花咲く丘」「仰げば尊し」「花」が歌われました。 <https://youtu.be/cc9YHJFPgn8> をご覧ください。右のQRコードからもアクセスできます。



では、歌でお花見を



今回、参加者が少なめでした。次回はもっと多くの参加者を期待しています。

2022年4月23日(土)
にお会いしましょう。

2022.03.23
JVCKW シニアクラブ

事務局長 田代 周



外はまだ雪景色、室内には春の訪れ

「私の故郷」アンケートまとめ

生誕地別人数

北海道	4	新潟県	3	広島県	3
秋田県	2	長野県	4	徳島県	1
岩手県	3	富山県	2	福岡県	1
宮城県	1	石川県	2	長崎県	1
山形県	3	岐阜県	1	大分県	1
福島県	5	愛知県	6	熊本県	1
茨城県	6	三重県	1	鹿児島県	1
栃木県	2	滋賀県	2	朝鮮	1
群馬県	3	京都府	2	樺太	1
千葉県	6	大阪府	2	満州国	3
東京都	22	兵庫県	3		
神奈川県	29	岡山県	1		
山梨県	1	島根県	4	総数	134

生誕地と故郷意識

地方別まとめ	生誕地 総数	生誕地 =故郷	その他	生誕地故郷 意識率
北海道・東北	18	16	2	88.9%
関東	17	12	5	70.6%
東京都	22	12	10	54.5%
神奈川県	29	24	5	82.8%
中部	19	17	2	89.5%
近畿以西	24	22	2	91.7%
海外旧日本領	5	0	5	0.0%
総数	134	103	31	76.9%

多くの方が生まれた地を故郷と思っているが、東京生まれの人には、戦中・戦後の疎開先や子供の頃夏休みを過ごした親の実家を故郷と感じている人がいる

アンケート結果により、事務局から何人かの人に「私の故郷」投稿をお願いしました。
全文はシニアクラブHPの「会員からのお便り」に載っているのをご覧ください。

私の故郷「津山」（東京）原 毅

私の故郷は岡山県津山市です。

津山市のシンボルとなっている津山城は本能寺の変で討死した森蘭丸の弟忠正が1616年に築城した日本三大平山城です。「日本100名城」「日本さくら名所100選」にも選ばれています。

明治6年の廃城令により建物はなくなりましたが壮大な石垣が残っておりお城の規模の大きさを偲ばせます。春には西日本有数の桜の名所として知られ約1000本の桜が咲き誇る景観は見事です。

津山市は洋学の街としても知られています。幕末に活躍した賢作玄甫を始め宇田川榕庵、玄瑞、玄真等多くの洋学者を輩出し明治以降の日本の近代科学発展に大きな影響を与えました。

私は高校3年まで津山で過ごしました。古い城下町でいろいろな夢を見ながら多感な青春時代を過ごしました。淡い初恋や野球に打ち込んだ部活など思い出多い街です。

今でも高校時代の同期の友だちとは毎年東京で同期会を開催し親しく交流を続けております。

津山は人間としての私の原点を育ててくれた場所であり、山青く水清き「山紫水明」の自然豊かなかけがえのない故郷です。



私の故郷「江田島」（千葉）木崎 勝紀

私の故郷は 広島県江田島市です。

一般的に故郷と言えば生まれ育ったところですが、私の場合は大塚市内で生まれ、戦時中の昭和19年～27年まで父親の故郷である瀬戸内海の江田島に家族で疎開しました。

当時の江田島は海軍兵学校があり、全国から優秀な若者が集められ日夜訓練に励んでいました。その海軍兵学校は終戦後に米軍に接収され、駐留米軍とその家族が居住しており、芝生の広や満遍なく住まいを外から眺めるにつけ戦勝国と敗戦国の生活の格差を感じていました。

しかし、気候温暖な江田島では目の前に海、すぐ後ろにそびえる「古嵐山」という自然に囲まれた環境で育ち懐かしさには恵まれていたなと思います。

その旧海軍兵学校が昭和31年に返還され現在の海上自衛隊第一術科学校に変わりました。改築された部分もありますがほとんどの建物が当時の様子を残しており観光コースになっています。



旧海軍兵学校と古嵐山（写真引用：広島県観光連盟「観光ナビ」）

私の故郷「名古屋」（神奈川）八木 潤三

私が高校まで過ごしたのは名古屋です。大学時代は東京の自由が丘や都心の神楽坂に下宿をし、友人達とは出会いあり・別れありの青春を謳歌していました。

昭和42年4月に日本ビクターに入社し、そのまま首都圏で仕事をしながら一と思いきや、出身地で営業をせよとの命令を受けて名古屋で機器営業に就きました。

上司や先輩の背中を見て自分の糧としたり、取引先の社長さんや店長さん達からは励ましやお叱りを受けたりしながらセールスに励んだ？おかげで、名古屋商法の「粘る、粘る、またネバる」姿勢が身についたこと、また当時の菅沼委員長や高石書記長の下で労組東海支部長を経験できましたし、更に2年間夜学に通って社会保険労務士の資格を取得できた名古屋は正に私の原点とも故郷とも言えます。



私の故郷「八尾」（現、富山市）（神奈川）宮田 淳

私の故郷八尾町は「おわら風の盆」で一寸は名の知れた町で、毎年9月1日から三日三晩は町中が祭り一色になります。洒落な祭りではありませんが、町中に三味線と胡弓の音が響き若い男女が「おわら語り」で町を練り歩く「町流し」の幽玄な風景は郷愁を誘う胸にシーンと来るような祭りです。



子供のころは親から少しの小遣いを貰い、町流しの後に付いて行ったり、屋台でゲームをしたりして一日中家に帰らなかったものでした。今では遠い昔の思い出です。

ここ2年は新型コロナウイルスの影響で中止になりましたが、皆さんも機会があれば、是非一度は足を運んでみてください。これが私のふるさと自慢です。



私の故郷「長崎県新上五島町」（千葉）原 充

新上五島町の玄間川、有川港には長崎港、佐世保港から高速船でどちらも1時間半で到着。古くは近海でのクジラ漁で栄え、南水洋における近代捕鯨の捕鯨船基地ともなっていました。それにちなんで、フェリーターミナルはクジラ形しており、その資料館も設置されています。第50代横綱佐田の山の出身地でもあります。

また、町内には国指定重要文化財「天主堂」を始めとして多くの教会堂があり、「頭ヶ島の集落」と「頭ヶ島天主堂」は世界文化遺産に指定された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の一つの構成資産となっています。

私はこの町の観光大使を務めています。ここ2年程コロナのために観光客

が、これから多くの人々の来島を期待し皆様もぜひここに訪れてみてください。



ほかの皆様も是非、故郷について教えてください
投稿をお待ちしております